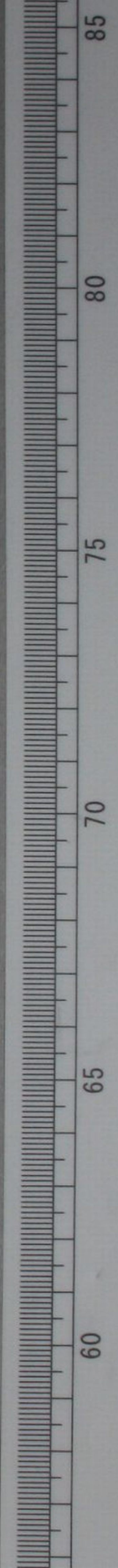




家門書三

中村俊定文庫
文庫 18
243





幸藏巻之三

一 食ふく
 三 行燈あんどう
 五 菅草石盆たしこいん
 七 香多丸かんご
 九 十夜丸じゅうや丸
 十一 月器げり
 十三 杖つえ
 十五 三味線さんまいせん

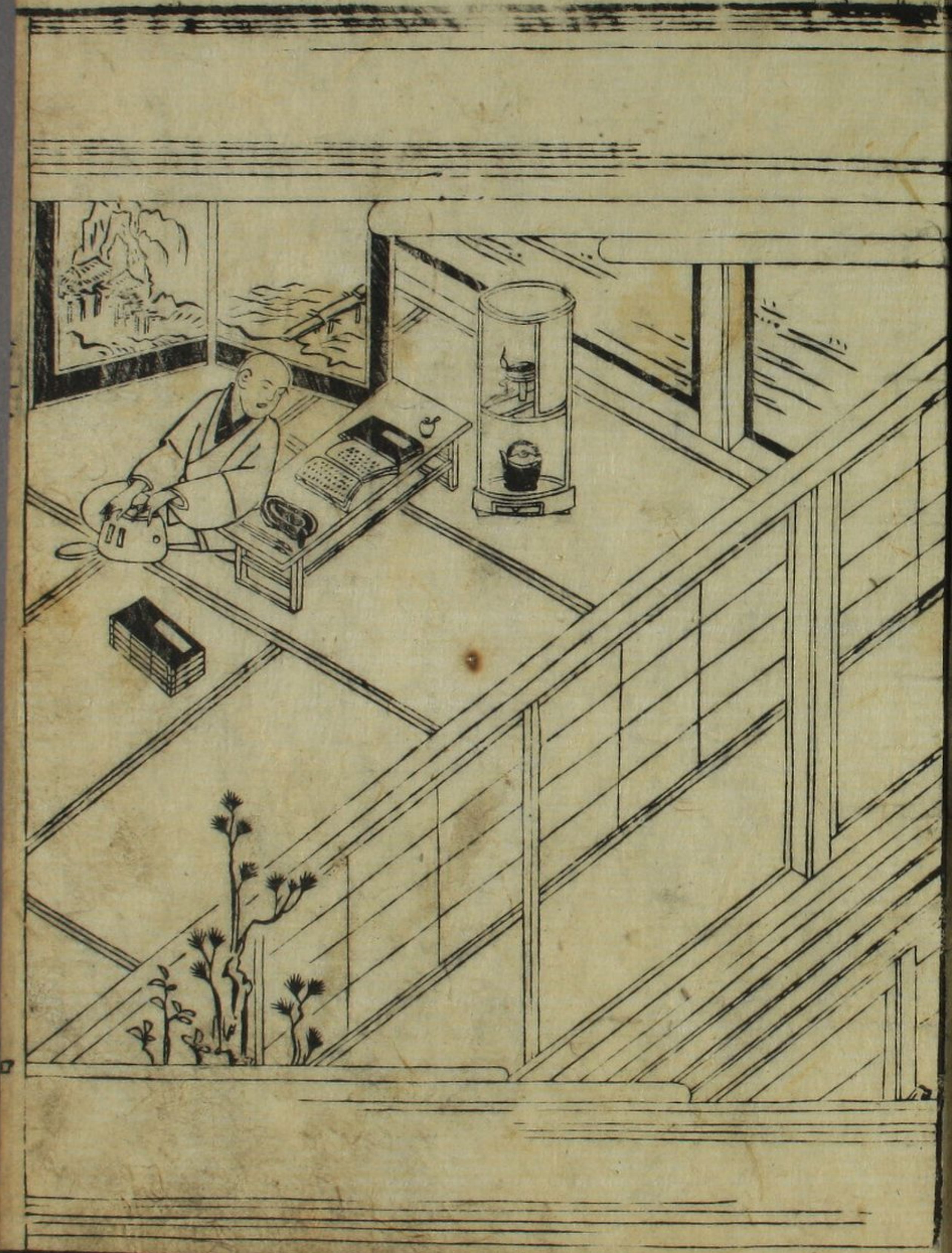
二 火桶ひんげ
 四 碁盤いごばん
 六 菓子盆かしばん
 八 鏡やたがひ
 十 腰下丸こしげり
 十二 杖つえ
 十四 崩かたまり

幸藏巻之三

食

あつものせぐやど 磔むくよしつゝのそほくううせ
 りふいそとらんり 佛ぶつくささうあうくさささ
 皮かわを平ひらの天子てんしの 旧ふる食け田た枕まくらとあささうせあふ
 ささ陽ひかりをか妃ひめの神かみの者ものやのうらん今いまも
 つらうくささうささうささうささうささうささう
 おさうくささうささうささうささうささうささう
 ささうささうささうささうささうささうささう
 とあさうささうささうささうささうささうささう
 わささうささうささうささうささうささうささう





て今もこののりたるやとれいよのつはのり
 のちのいさくゆかぞのたゑらうしつはる
 火桶ぬ八月むとるしぞ乃な

火桶ヒツケ火丹ヒ学問アカシテガクモン青アヲシ
 五條テウノ三位ミ六條テウノ叟ヲキナ自ミ歌道カダウノミ主人シニ連誹レンハイ丁チヨロ
 詠吟エイギン可耻ヘシ不亡フバウ靈レイ

くらり

おまりのりり本とまよのりる月のりん

松亭閑意十三月

不構世間慰我炊房

杲子盆唯可蓬嶋

冬春積橘夏秋桃

磨壺

おのくしてんぐういぬい文車ふらまのりる磨壺ちりびの
らるりとのりるいぬい文車ふらまのりる磨壺ちりびの
ふのりるいぬい文車ふらまのりる磨壺ちりびの
らるりとのりるいぬい文車ふらまのりる磨壺ちりびの

らるり磨壺ちりびのりるいぬい文車ふらまのりる磨壺ちりびの
らるり磨壺ちりびのりるいぬい文車ふらまのりる磨壺ちりびの
らるり磨壺ちりびのりるいぬい文車ふらまのりる磨壺ちりびの
らるり磨壺ちりびのりるいぬい文車ふらまのりる磨壺ちりびの

磨壺ちりびのりるいぬい文車ふらまのりる磨壺ちりびの

平生坐右可隨身
可會可看老君道

一箇器財適主人
澹和光矣甲同塵

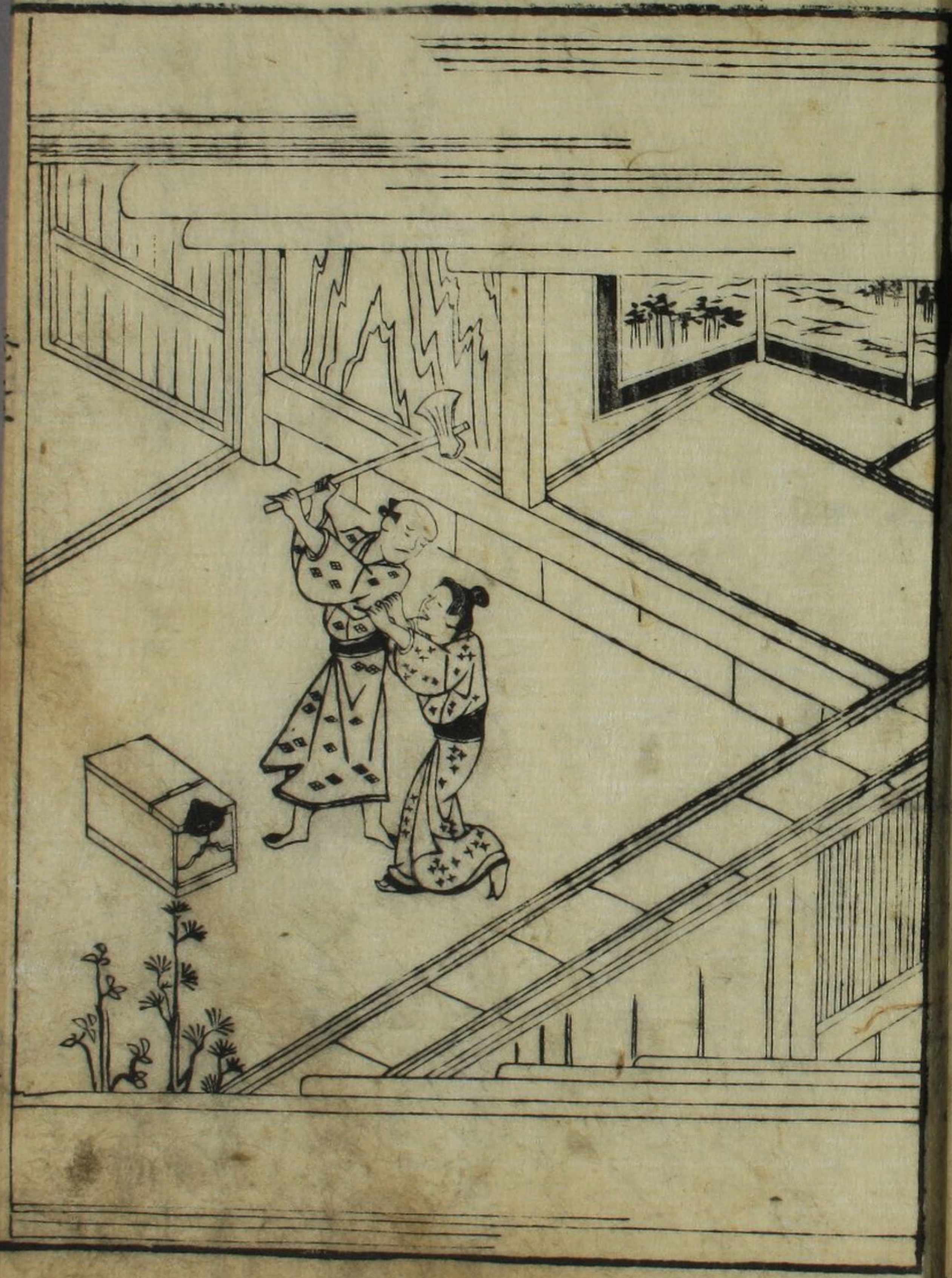
後箱

おのりるいぬい文車ふらまのりる磨壺ちりびの
おのりるいぬい文車ふらまのりる磨壺ちりびの
おのりるいぬい文車ふらまのりる磨壺ちりびの
おのりるいぬい文車ふらまのりる磨壺ちりびの

つづきぬとくお人の結みも悪子実負達人
 知命とこそあつまきあつていふものごとよ
 難儀の短尺付られどして毎年めで死こと
 まぬらうくと幸ととらずてうんちやおよま
 のろまごりといふゆるゆるしきこひおとすて
 後おろり寝られ月名あふの尻

家風カフウ從ヨリ昔カシ憎ミ疑性ギセイヤ
 勿怪ナカレ慣ヤシム衆ムネ堅ツル局カク鑄クサ

万事人任マンジ一守愚ヒトニカセモラハクニモルクラ
 豈憂ニウレ盜ニヤス苟耻ヒトシイカガキヲラシセニキヲ錢無カネナシ



之とくくとして服ぶるはふとくくとして
 四のばつちつてある事とくくして
 此の事をも服ぶるはふとくくとして
 かくさ家の物毎ふとくくして
 ばつちつてある事とくくして
 の世とくくして念仏とくくして
 法華家の経読とくくして
 乃富とくくしてわじつとくくして
 しくも又月むの目やしくも
 とくくしてわがうらなとくくして
 するくくしてやうとくくして

引れもあはれかきものうくくして
 ばつちつてある事とくくして

ひとんやうとくくして

目器益明勝薬針

メ カ子 ミスー イヲヲヤクシニ
シヤホ子 ヲツテナスニ 一ツチ

讀書貪樂價千金

トク レヨノ シシラクアタヒ セン キニニ
バイス ヲウ クララキニビノ カゲ

一生骨折為何事

百倍憂患燈火陰

杖見 ちつた昔あれの物とくくして
 ちつた昔あれの物とくくして
 ちつた昔あれの物とくくして
 ちつた昔あれの物とくくして



鹿実

鹿とつくと女成治め女成治め人とははら
 へものふのなららまきさうぬ人の海
 しんまわさくとも撲れは便よりの政和
 よりてその仇と報くつと考と用持
 らうさこれまがりのまはらりかてそま
 らぬ人のりてかたわらして龍つことい
 何れを鹿の賊の黒くありまはらり
 と中ね益賊はまらるゝと客とい
 んそまらるゝ小仇といひさんこれ
 事と報く一あらりかてまらると今

少年一曲似春鶯
誰識昔吾浮藏主

掩抑三絃戀暮聲
當時惡聽足衆情

三之終

